

## 61. 「伽羅先代萩」の「伽羅」

問 「伽羅先代萩」の「伽羅」は「から」<sup>(1)</sup>で、朝鮮のことですか。

答 「伽羅」〔加羅とも表記する〕は3－6世紀頃、朝鮮半島南部の洛東江一帯にあった小国の総称で「日本書紀」巻第19の欽明天皇2年の記事の中にも現われていますが、しかし、この設問の「伽羅」<sup>(4)</sup>は、梵語 Kālaguru の音写で「きゃら」<sup>(3)</sup>と読ませます。従って「伽羅先代萩」は、朝鮮とは関係ありません。そして「伽羅先代萩」とは、いわゆる伊達騒動を題材とした歌舞伎と浄瑠璃の外題〔げだい〕<sup>(8)</sup>なのです。その上、歌舞伎・浄瑠璃の外題は、用字の音訓を離れて特殊な読ませ方をするもので、「伽羅先代萩」は「めいぼくせんだいはぎ」<sup>(9)</sup>と読むべきものとなっております。「伽羅」は香木中の最高とされるものなので「名木」とし、その音「めいぼく」を充てたものであります。なお、「先代萩」の「先代」は、「仙台」の直接的な表記を避け、同音の漢字を宛てたものです。

注(1) 誤まったルビを振つたものに、次のようなものがあるので、注意を要する。

「宮城野」(斎 落花。大正3年刊)『稗史に名ある寛文の伊達騒動演本の所謂伽羅千〔先代萩…〕』

注(2) 「六国史」〔りっこくし。P.242の注(7)参照〕の一。奈良時代に完成したわが国最古の勅撰の正史。神代から持統天皇までの朝廷に伝わった神話・伝説・記録などを修飾の多い漢文で記述した編年体の史書。30巻。養老4年〔720〕舎人〔とねり〕親王らの撰。「日本紀」と略称する。

注(3) 『夏四月…加羅上首位古殿奚…〔なつづぎに、…からのおこししゅるこでんけい…〕』  
『秋七月…抜取新羅所折之国南加羅…〔あきふみづぎに、…しらきのへつれるくにありひしのからをぬきとりて……〕』

注(4) ジンチョウゲ科の常緑高木、沈香、インドから東南アジアに分布し、材は香木として珍重される。生木または古木を土中に埋め、木質を腐朽させると樹脂が残る。光沢のある黒色の優良品を「伽羅」という。梵語 Kālaguru にも黒い沈香の意味があり、「黒沈香木」と漢訳する。

なお、「伽」の漢字音は「きゃ」・「か」、慣用音「が」。

注(5) P.20の注(1)参照。

注(6) 阿国〔おくに〕歌舞伎に発源し、江戸時代に興隆、独自の発達を遂げたわが国特有の演劇。史実・伝説や社会事象を、俳優が主として江戸時代及びそれ以前の人物に扮し、音楽・舞台装置の中で演ずる芸で、舞踊の要素をも含む。歌舞伎芝居とも旧劇ともいう。

注(7) 平曲・謡曲などを源流にした音曲語り物。室町末期、主として琵琶や扇拍子を用いて広く民

衆に迎えられた新音曲のうち、「浄瑠璃姫物語(十二段草子)」が大好評を博したことで、浄瑠璃がこの種一連の語り物の名となった。後輸入楽器の三味線と人形まわしを結合して民衆劇として発展。初期には金平〔きんぴら〕・播磨・加賀・説教節などの古浄瑠璃が江戸・京坂〔昔の大阪の地名は大坂〕に盛行。元禄時代、竹本義太夫が諸音曲のよさを集大成して義太夫節を完成。ここに浄瑠璃は義太夫節の異名となった。後、河東〔かとう〕・宮蘭・常盤津・富本・清元・新内節などの諸浄瑠璃が派生した。

注(8) P.241 の注(3)参照。

注(9) 「伽羅先代萩」の歌舞伎は、奈河亀輔作、安永6年〔1777〕4月20日初日で大坂中〔なか〕の芝居初演。伽羅で作った下駄を仙台侯が履いていたというので伽羅の名を取り、仙台の萩大尽から先代萩の名が由来するという。

浄瑠璃の方は、松貫四・高橋武兵衛・吉田角丸らの合作、天明5年〔1785〕1月江戸結城座で初演。「奥州秀衡遺跡争論」〔おうしゅうひでひらあとめのあらそい〕の角書〔つのがき。冠称〕がある。毒薬を煎ずるに伽羅の木を焚くことから伽羅の名をとり、衣川の定倉邸で、庭に萩を植え、先君の愛された花だというので先代萩と名付け酒をくむことから先代萩の外題が由来する。

同一外題の歌舞伎と浄瑠璃とで、歌舞伎の方が先駆した。現行の「伽羅先代萩」は、この両者と、初世桜田治助の「伊達競阿国戯場」〔だてくらべおおくにかぶき〕とを折衷して近世化したものである。ことに歌舞伎の方は、演出様式や人名にいろいろの改訂が試みられている。

資料 佛教語大辞典(中村 元)

日本国語大辞典(小学館)

演劇百科大辞典5(早大坪内博士記念演劇博物館編)

## 62. 木下杢太郎の文学碑

問 木下杢太郎の文学碑が仙台に建っているというので、文学碑や文学散歩の本で調べたがわかりません。所在地と碑文を知りたいのです。

答 木下杢太郎の文学碑は、仙台市長陵町東北大学医学部正門内、基礎研究棟の前庭芝生の中に建っています。木下杢太郎、本名太田正雄<sup>(2)</sup>は、大正15年から昭和12年まで、医学部教授として在任しましたが、その学恩を受けた教子<sup>(1)</sup>が中心となり、同窓会の名において建立し、昭和58年5月22日、医学部110周年記念式典の日に除幕したものです。<sup>(3)</sup>